



『YMCAキャンプの魅力』

赤松 貴美

我が家の長女が盛岡YMCAのキャンプに参加するようになって、2年目になります。春はスキー夏、秋は自然の中でのキャンプ、冬はまたスキー。その合間にはアドベンチャーにも参加しています。そもそも何故長女にYMCAのキャンプに参加させようと思ったか。

それは私自身がYMCAキャンプのOGだからです。子ども時代の私は、「右向け、右」と言われれば、1時間でも2時間でも右を向いているような果てしなく鈍くさい子供で、何をするのも周りより1テンポ遅れていました。今でもはっきりと思い出せるのは、ある島でのサバイバルキャンプでの出来事です。「自分の食べる物は島に有るので自分で調達しよう」というプログラムがあり、皆が果物や魚を順調に調達する中、他の子どもたちと協力することもできず、用意できた食材はセミの抜け殻ひとつ。(セミの抜け殻は食材ではありませんね)鈍くさい私は途方に暮れていました。すると一人のリーダーが私の手を引いて、島にある食糧倉庫にこっそり連れていきこう言いました。

「このままだとご飯が食べられない!これは命に関わる事態だから、こういう時は倉庫から缶詰を失敬しても神様は許してくれる!」

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

その缶詰をきっかけに、お腹が満たされただけでなく、缶詰を失敬した勇者として皆に溶け込むことができ、友達と協力しながら無事、サバイバル生活を終えることができたのでした。

小学生だった私にとって、ありのままの自分を受け入れてくれるリーダーは特別な存在でした。友達でもあり、憧れでもあり。

我が家の長女もまたリーダーが大好きです。泣いても騒いでも、泥んこになっても、時々わがままを言っても、リーダーの顔中に落書きをしても、相手の事を傷つけない限りリーダー達は受け止めてくれるからです。かといって全ての事に手を貸してくれるわけではありません。ヒントは与えてくれるけれど、最後には自分たちの力で答えを出さなければならないのです。その為には誰かと必ず協力しなければいけません。

自然の中での体験を通して、「誰かと一緒に何かをする」事から学ぶ。それがキャンプの魅力と言えるでしょう。

長女にはこれからもどんどんキャンプに参加して、「大切な気づき・発見」をしてもらいたいと思います。

会員総会

5月19日(土)日本基督教団内丸教会を会場に、2018年度盛岡YMCA会員総会が執り行われました。開会礼拝では、角谷晋次理事より「弱い部分が必要」の題から、2017年度の働きを省みると同時に、2018年度もそれぞれを大切に、取り組みを進めていくことを忘れてはいけないとの話を頂きました。その後、魚住英昭理事長よりご挨拶を頂戴いたしました。

総会では、パワーポイントにて濱塚総主事より事業報告、会計計算報告、2018年度事業方針・計画、予算報告がされました。また、リーダー会の自主事業であるサンデースクールの報告の他、リーダー歓迎会やリーダーキャンプ等の報告がされました。さらに、リーダー会でのアクションプランの作成や自主事業であるサンデースクールの益金をリーダー育成費として、ワークキャンプやリーダーの研修会参加費用補助として使うことが出来るよう整備していくことが報告されました。

総会終了後の茶話会では、岩手大学3年小野史織さん(キュービーリーダー)から、茶話会に参加していただきました皆様へ、昨年度参加した、ネパールワークキャンプの報告がされました。初めての場所環境に戸惑いながらも、自分の目的をしっかりと持ち、一つ一つの体験を経験に変えられるよう努めていくことが話されました。その他、盛岡YMCAの会員、ボランティアリーダー、職員が和気あいあいとした雰囲気の中で交流を深め、内丸教会からお借りしているリーダー部屋を会員の皆様へご紹介したり、内丸教会裏に整備された畑予定地を共に見学するなど、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

総務部主任主事 浅沼 慧



石渡前理事長 感謝会

5月19日(土)会員総会終了後、盛岡北ホテルを会場に、石渡隆司前理事長の永年のご尽力と礎を築かれたことに対する感謝会が執り行われました。感謝会には、理事常議員、スタッフ23名が集い、場を共にしました。初めに、魚住英昭理事長より、設立からの苦しい時代にあって、石渡前理事長は旗を降ろすことなく振り続けYMCA運動を進められたことに対して、敬意を表するご挨拶がありました。続いて、会員総会で承認された名誉理事表彰並びに記念品と花束の贈呈がされました。

YMCA職員から花束贈呈がされた際には、顔もほころぶなど普段とはまた違う表情も見られました。続いてのご挨拶では幼少期ご自身が過ごされた環境と、YMCAとの出会い、旗を振り続けてきた経緯などをお話いただきました。非常に謙遜され、ご自身がYMCAに対して大きな働きは決して行ってはいないとお話もされていました。

会食をしながらの歓談では、盛岡YMCA設立当初から共に運動を支え合ってきた、深澤秀男副理事長と対談形式で、設立の経緯やYMCAがこれまで歩んできた歴史を振り返りながら、今までは語られることのなかった、感謝会の場だからこそのお話もありました。

感謝会の最中には、これまで苦勞を共にしてきた理事常議員の方々が、石渡前理事長の元に集い話に花を咲かせる場面やその中で多くの笑顔が見られていました。

これまでの働きに敬意と感謝を表し行われた感謝会でしたが、参加した一人ひとりが笑顔で、そして石渡前理事長も非常に喜ばしい笑顔で帰路につかれるという時間を、多くの方々で過ごすことが出来たと感じました。

総務部主任主事 浅沼 慧

リーダーキャンプ

こんにちは!チーズです。私から4月29日~30日に行われたリーダーキャンプについて報告させていただきます!国立岩手青少年交流の家で新入生とリーダー・スタッフ合わせて40人程の一泊二日のキャンプとなりました。昨年よりも参加人数が減ってしまいましたが、その分、新入生一人ひとりとかかわることができ、新しい出会いもたくさんありました。二日間天気にも恵まれ最高のキャンプ日和となりました。キャンプ場に到着後、さっそくリーダーたちによるプログラム開始です。ジェスチャーで何をしているのか伝えたり、自分と同じ共通点をもった人とペアになって遊んだりしました。ジェスチャーでは、一人で伝えるのが無理だと判断すると、グループ全員でお題に沿って伝えているグループもあり、子どもたちにも負けないくらいの全力さが伝わってきました。

お昼ごはんは、ちょうど桜が満開となっていたのでお花見をしながら食べました。ご飯を食べた後は、外全部を使い、大学生らしく少し頭を使ったプログラムをしました。グループごとに相手の動きや出方を探りながらミッションをこなしていき1位を目指します。

優勝したグループには、手作りのTシャツがプレゼントされました。たくさん体を動かした後は、野外炊事です!グループごとに協力し、それぞれのグループが美味しいカレーを完成させました。

そして、夜のお楽しみ、キャンプファイヤー。歌って踊って全員で盛り上がりました。見上げると星空もあり時間がゆっくり流れているようにも感じました。

2日目は、リーダーダービーや、リーダーの幼少期の写真を当てるなど、YMCAにいるリーダーをたくさん知ってもらえるようなプログラムを行いました。午後は、けいどろや水遊びをして走り回って遊びました。顔が真っ赤に焼ける二日間となりました。新入生にも、YMCAの活動や雰囲気を知ってもらえてよかったです。今年も個性あふれる1年生がたくさんいてこれからの活動がより一層楽しみです。最後まで読んでいただきありがとうございます。

盛岡大学4年 小野寺 保乃香(チーズリーダー)

宮古アドベンチャー「No.1カレー決定戦」

5月13日に、宮古アドベンチャークラブの5月活動、「No.1カレー決定戦」を、陸中海岸青少年の家で行いました！去年と同じく、自分たちでオリジナルの食材を使い、グループの中で一番おいしいカレーを作るといったものです。

宮古駅からのバスでは、いろいろなリーダーの紹介をしたり、クイズをしたり、大きな声で歌を歌っていました。そして、あっという間に到着！早速カレー作り！とはいかず、グループでオリジナルの食材をかけたプログラム、「カレー王」が開催されました。このプログラムではクイズ部門と運動部門に分かれ、クイズ部門ではお肉、運動部門では野菜などの食材を選べるといったものでした。クイズ部門ではカレーにまつわるクイズ。「カレーはインドで生まれたんだよ！」「いやいや日本だ！」「じゃあカレーパンはどこだ！？」などなど、グループで話し合いながらクイズを解きました。運動部門では動物になりきってリレーをしたり、全員で手つなぎリレーをしたり... 頭と体を使って「No.1カレー」を目指してプログラムを行いました。

プログラムの順位で食材決めをしました。「牛肉がいい!!」「かぼちゃを入れようよ!」「俺チョコレート食べたいなあ...」などなど、どの食材を選んだらおいしいカレーができるかグループ内で激論しました。食材が決まったらカレー作り。食材を切る人、火付けをする人などそれぞれの担当にわかれ、オリジナルカレーを作りました!「まだ火がつかない!」「全然煮込めてない!」などと、ちょっと苦労してカレーが完成!家で作るカレーとはちょっと違った、自分で材料を選んで、切って、火をつけてつくるカレーは格別♪「あの班のカレーがおいしいよ!」「何の食材が入っているの?」「いやいやうちのカレーが一番だし!」などをしながら、歌を歌いながら!?食べるカレーはとてもおいしく、素晴らしい宮古アドベンチャーになりました。

岩手県立大学3年
岡田稜平(みんみんリーダー)



サマーキャンプ特集第一弾! 「YMCAのキャンプの魅力!」

みなさんこんにちは。サマーキャンプ特集第一弾ということで、各キャンプディレクターよりそれぞれのキャンプの魅力についてお話してもらいたいと思います。今年度サマーキャンプのラインナップは、「わんぱくキャンプ」「森の大自然満喫キャンプ」「サッカーキャンプ」「星空満点キャンプ」「北上川大満足キャンプ」「島のわくわくキャンプ」です。

まずは「わんぱくキャンプ」について家村知佳(しろくま)スタッフに伺います。

お泊りやキャンプ初心者の子にオススメのキャンプです!親の手を離れ、自然の中での生活にはきっと、戸惑うことがあるかもしれませんが!その中で友達と協力して自分たちでやれることを見つけてくれるはずです。

続いて、「サッカーキャンプ」について向平悟(Gパン)スタッフお願いします。

4日間サッカー漬けのキャンプです!最終日には岩手山カップをして、本気で戦えるチームになっていきます。サッカーだけじゃなく、バーベキューなど楽しい要素もたくさんあります。

「星空満天キャンプ」については、武田悠(ゴリナ)スタッフです。

2日間テレビもない、ゲームもない、大自然の中でとにかく遊び尽くします!その中で、自分たちでテントを張り、ご飯を作り、キャンプを創ります。岩手山の麓で仲間とともに見る朝陽と満点の星空は、今年の夏の一番の思い出となること間違いなしです。

今年度より盛岡YMCAサマーキャンプの仲間入り!「北上川大満足キャンプ」について、しろくまさんお願いします。

花巻のキャンプ場に泊まり、北上川や周辺の沼などでボートに乗ったり、釣りをしたり、水辺の遊びを満喫できるキャンプになっています!自然と触れ合いながら仲間たちと、様々な発見や経験を通して感性を育てたいです!

最後に、「森の大自然満喫キャンプ」「島のわくわくキャンプ」については、伊藤真太郎(ひげたまご)です。

森キャンは、一泊二日を外山森林公園の大自然の中で仲間たちと過ごし、普段の生活ではなかなか気づくことのできない風の音や、空気の匂い、いろいろな生き物との出合いを仲間とともに楽しみ、絆を深め合っていきます。島キャンは、夏と言ったら海!海水浴や磯遊びを三泊四日満喫します。盛岡YMCAのサマーキャンプの中で一番長いこのキャンプは、遊びを通して子どもたち一人ひとりが、その子なりに楽しみ、互いを思いやることでたくましく成長できるキャンプではないでしょうか!



盛岡YMCAの「育てる」のではなく「育つ」キャンプ。
今年もみなさんお楽しみください!!

君でいいんだよ ～ JUST THE WAY “YOU” ARE④7～

「よう!そこの若けーの!!」

60年代生まれの僕たちの世代は、子どもの頃、『現代っ子』と呼ばれていた。そして、学生になると「今の若い者たちは…」というお説教を散々聞かされた。

復興支援活動で、宮古に行くには車で2時間かかる。結構な時間だ。ということで、道中スマホに入れてある「濱ちゃんセレクション」の音楽をかけ続ける。同乗している学生リーダーにとっては甚だ迷惑な話だ。そこで、どの曲がいいか判定してもらった。

僕の大好きな「ちあきなおみ」にはピンとこなかったようだが、竹原ピストルのこの曲は、評価が高かった。瑛太や、吉田羊が出ている保険会社のCMで流れている曲だ。

よう、そこの若けーの。
俺の言うことを聞いてくれ。
俺を含め、誰の言うことも聞くなよ。
……

君だけの花の咲かせ方で、
君だけの花を咲かせたらいいさ。

今を生きる若者のハートをがっちり掴んだこの曲だが、実は80年以上も前、同じようなメッセージを発した人がいた。半年ほど前から話題になっている本『君たちはどう生きるか』に登場する“おじさん”は中学生の主人公コペル君に、こう語りかけるのだ。

もしも君が、学校でこう教えられ、世間でもそれが立派なこととして通っているからといって、それだけで言われた通りに行動し、教えられたとおりに生きようとするならば、「コペル君、いいか」それじゃあ、君はいつまでたっても一人前の人間になれないんだ。

子どものうちはそれでいい。しかし、もう君の年になるとそれじゃダメなんだ。肝心なことは、世間の眼よりも何よりも、君自身がまず、人間の立派さがどこにあるか、それを本当に君の魂で知ることだ。

「今の若い者たちは…」昭和一桁の人たちの言葉にはこういう意味を込められていたのか! 60近くになって、やっと気づいた「濱ちゃん」でした。

「わたしには、すべてのことが許されている。」
しかし、すべてのことが益になるわけではない。
「わたしには、すべてのことが許されている。」
しかし、わたしは何事にも支配されはしない。

新訳聖書 コリント信徒への手紙1 6章12節

盛岡YMCA 総理事 濱塚有史

ネパールでしろくまも考えた⑦

「出稼ぎ労働」

私たちは「安いから」という理由で、日本からアブダビを経由してネパールへ向かいました。アブダビと言えば、「アラブの石油王」というような金持ちセレブの国です。空港内は高級ブランドの店舗がずらりと並び、日本なら100円ほどで買えそうなスナック菓子がろ、ろろ...600円?!?! 衝撃でした。...と早速本題から外れてしまいましたが、今回は出稼ぎ労働についてです。アブダビからネパールへ向かう飛行機は帰国するネパール人でいっぱいでした。その理由は、「ティハール」というお祭りに合わせて出稼ぎ労働者が一時帰国するからでした。

ネパール人の多くは他国へ出稼ぎに行きます。ネパールではいくら働いても十分な収入を得られないのが現状です。

というか、仕事がないのです。なぜネパールでは稼げないのか...。ネパールは標高の高い山脈が連なる山岳地帯です。そのため土地を開拓するにもなかなか難しく、トンネルや道路もまだまだ整備されていない状態なので開発が進んでいきません。そして、政府もしっかりと機能していないことも大きく影響しています。今、ネパールはアジア最貧国と言われるほど、生きることで精一杯の方が多いのです。

今日もまた、ネパールからどこかの国へ出稼ぎに出る人がいるのでしょう。ネパールではそれが普通。その国での常識が全く違うことを実感した経験でした。

本町センター副センター長 家村知佳



ネパールを発つ直前。カトマンズ空港の前で、ガイドさんと運転手さんと一緒に。

表紙の写真から



宮古アドベンチャークラブ「カレーNO.1決定戦!!」での一コマ。「ねえねえ、ちょっと見て」と言われて振り向くと、4年生の女の子がきれいに人參でYMCAを作ってくれていました。ところが、完成間近のところでもAが失敗。みんなの見守る中で再度挑戦。見事にやりきりました!!